

第2回 啓発プロジェクト 要点録

開催日時：2025年9月19日（金）

10時～11時 オンライン

当日の議事

- 1, 前回の振り返り
- 2, 今後に向けたアクションプランの検討

～以下内容の要約～

1, 前回の振り返り

プロジェクトの目的は、多くの人が「老い」を自分事として捉えられていない現状を改善するため、前向きに受け入れられるよう啓発を進めること。

前回は「老い」に対するネガティブな認識を確認。90歳の体験談から、「老い」をポジティブに捉えることの重要性を認識。「老い」を単なる説明ではなく、「年を重ねることが楽しみになる」という問いかけを通じて、ヒント集や啓発を進めてはどうか。となった。

宿題「楽しく年を重ねている人」を見つけ、その体験や秘訣を収集してくる

2, 今後に向けたアクションプランの検討

1)宿題「楽しく年を重ねている人」の事例共有

- ・カーブスに通う女性: 70～80代の女性たちが、健康に気をつけながら友人との交流を楽しんでいる。
- ・盆踊りやお祭りでの活動している方: 他世代に昔ながらのやり方を教え、生き生きと活動している。
- ・管理組合の役員: 80代後半の男性が、「じっとしていられない」という思いから精力的に活動している。
- ・「もしもし新聞」配布活動: 30年以上も活動を続ける高齢者もいて、「人の役に立っている」という実感を持ち、健康につながっていると話す。
- ・業務で関わる方: ボーリング、麻雀、家のゲームなど、人と関わることや自分の楽しみを見つけている方が楽しく年を重ねている人だと感じる。(薬局)
- ・包括ケース: 96歳で初めて包括支援センターに相談に来た女性は、地域活動への参加が楽しみで元気な生活を送っている。

2)今後の啓発方法と継続の重要性について

- ・メディアの活用: 市の広報やメディアなどで活動を取り上げてもらうことも有効ではないか。(市の広報に毎月掲載などは、相談のうえ検討だが、人気もあり継続は難しい)
- ・オンラインの活用: 求人活動において、60～70代の高齢者もネット経由で応募してくるケースがある。
- ・YouTubeの活用: 企業(4輪自転車)のYouTube動画から、免許返納者の問い合わせにつながっている。
- ・継続的な発信: チャンネルはたくさん持つに越したことはないが、どの媒体であっても1回限りの発信ではなく、継続した情報発信が最も重要。
- ・ツールの使い分け: 紙とウェブはそれぞれ異なる層に届くため、両方を活用し、入り口はシンプルに、詳細はウェブに誘導するなどの工夫が必要。
- ・動画の長さ: 1分程度の短い動画で要点を伝えるのが効果的。

3)啓発のターゲット層と内容について

- ・ターゲット層:以前の会議で、高齢者を一括りにせず、**世代別に考える**という議題があった。
65歳は定年退職など、人生の大きな転機を迎える時期であり、その後の人生に対する不安を抱き始めるため、年齢だけでなく**ライフイベント別**での働きかけという視点も。75歳までには準備。75歳からは、「今まさに」という啓発。2段階に分けて啓発が必要。
- ・啓発内容:「老い」に対する漠然とした不安を解消するため、**先輩の活動や生きがいをモデルとして紹介**し、具体的なイメージを持ってもらう。
- ・メリットの提示:受け取る側にとっての**メリットを明確に伝える**ことが重要。(市リーダー養成講座募集の体験談から、「自分にとってのメリット」を訴えることの効果があった。)
- ・言葉とデザイン:ターゲット層に合わせて、大きな文字や見やすいデザイン、分かりやすい言葉で表現。
- ・次のアクションを:広告や広報物には、**見た人が次に何をするべきか**(例:問い合わせ、イベント参加など)を明確に記載する。

4. 今後のアクション

- ①叩き台の作成:議論で出たキーワード(継続、ライフイベント、ターゲット層、次のアクションなど)を盛り込み、啓発内容の叩き台を作成する。【第一層生活支援コーディネーター・市】
- ②関係者への相談:叩き台作成にあたり、一部の参加者に個別に連絡を取り、アドバイスいただくかもしれません。
- ③次回の集合:叩き台をもとに、再度メンバーを集めて具体的な検討を進める。

5. その他

- ・「ハッピーエイジングフェス」の告知:11月に開催されるイベントの告知。年を重ねることをポジティブに捉えるためのイベントであり、来年以降の協力団体も募集している。啓発と近いテーマと感じている。
- ・今後のプロジェクト:来週には「活躍プロジェクト」が開催される。東京都の担当者やボランティアセンターも参加予定。ぜひ参加ください。

以上